

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動発達支援スタジオ 笑みりい〜羽曳野		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育特化型のプログラムを提供していること。	お子様1人1人の課題点によって、どのような運動や動きが必要かを職員間で話し合い共有し、支援に活かしている。	定期的に研修を行い、職員それぞれが感覚統合の知識を深め、支援に活かしていきたい。
2	『ほめる支援』を徹底していること。	『できない』と思うことは、小さな『できる』を促し、小さな『できる』を積み重ねることで、大きな『できた!』に繋げる『スモールステップ』で支援に取り組んでいること。また、『できた!』ことに対して一緒に喜びほめることで、自己肯定感を高め自信へと繋げている。	楽しく活動しながら成長していただき、思い出に残るような療育を目指していきたい。
3	生活プログラムでは、ADLトレーニング、ビジョントレーニング、SSTといった3つの分野で課題を提供し、日常生活をスムーズに送るためのプログラムに特化していること。	声掛けの言葉選びや、関わる距離感など、お子様1人1人に合わせて、有効な方法を共有している。	職員1人1人が指導員のプロとしての意識を持てるよう、支援方法や特性理解などを深めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	決まったプログラムのため、なかなか他事業所のお子様と関わる機会が少ないこと。	運動療育ということで、だいたい週1回、1時間35分のご利用者が多く、できることが限られているため、イレギュラーな動きへの対応が難しい。	限られた時間の中で、いかに効果的に活動ができるかを、職員間でしっかりと共有していこうと思う。
2	長期休暇中は朝からご利用を希望される方は他事業所を利用することが多い。	長期休暇中も平日と同じ提供時間のため。	提供時間を変更することは難しいため、1時間35分のプログラム内容をさらに魅力的かつ効果的なものにするよう、職員間でプログラムを考案し、お子様へ提供していきたい。
3			